

教科(科目)	地理歴史（歴史総合）	単位数	2 単位	学年	2 学年
使用教科書	わたしたちの歴史 日本から世界へ（山川出版社）				
副教材等	新詳 歴史総合（浜島書店）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までにこのような資質・能力を育みます。 ①明確な目標を設定し、その達成に向けて継続的に努力できる力を育成します。 ②主体的・意欲的に学びに向かう姿勢と、誠実で礼儀正しい態度を育成します。 ③前向きに自己の向上に努め、思いやりを持って行動できる力を育成します。 ④自ら課題を見つけて解決しようと行動し、社会に貢献する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います。 ①基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、ICTの活用など工夫をし、生徒が主体的・対話的に学習に取り組めるよう「分かる」授業の実践・改善に努めます。 ②総合的な探究の時間では、教科等横断的な視点で、地域社会と自己との関わりから課題を発見し、多様な他者と協働して解決しようとする活動に取り組みます。 ③生徒個々の持っている長所・能力を最大限伸ばし、生徒が自らの可能性に挑戦し、進路希望を実現できるようキャリア教育を推進します。 ④社会に貢献する姿勢を身に付けさせるために、新潟県立大学との交流、地域行事への参加、ボランティア活動などへの積極的な参加を促進します。

2 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉え、資料を活用しながら歴史の学び方を習得し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察、構想する学習を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりできる。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を持ち、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。

5 評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	定期考査、課題プリント、提出物の取り組みや提出状況、授業中の態度や取り組み状況などから評価する。	定期考査、課題プリント、提出物の取り組みや提出状況、授業中の態度や取り組み状況などから評価する。	課題プリント、提出物の取り組みや提出状況、授業中の態度や取り組み状況などから評価する。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分に満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	歴史の扉 1. 歴史と私たち 2. 歴史と資料	学校の歴史	諸資料を活用し、課題を追及し解決する活動を主体的に取り組む。	2 時間	授業態度、取り組み ノート
		学校給食の歴史			
	第1部 近代化と私たち	近代化への問い	交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から、情報を読み取ったりまとめたりし、近代化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。	1 時間	授業態度、取り組み ノート プリント
		1.18 世紀の世界とアジア	18 世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、18 世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、18 世紀のアジアの経済と社会を理解する。	21 時間	定期考査 授業態度、取り組み ノート プリント
		2.産業革命	イギリスで起こった産業革命の内容と、その後の変化について理解する。		
		3.アヘン戦争と日本	イギリスを中心とする世界市場が形成された過程と、世界の諸地域の変容について理解する。		

5		4.日本の開国	19 世紀の東アジアと日本が、どのような変化をとげたのかについて考察し理解する。		
		5.日本の開国期の国際情勢	19 世紀のヨーロッパが、アジアでどのような経済関係を形成し、経済圏を確立したのかについて理解する。		
		6.開国後の日本社会	開国が日本にどのような変化をもたらしたのかについて理解する。		
		7.市民革命と国民統合	市民革命はどのような社会の仕組みを生み出し、国民統合をすすめたかについて理解する。		
		8.明治維新	明治維新は、どのような国際環境の中で起き、日本社会をどのように変えたのかについて理解する。		
6		9.富国強兵と文明開化	明治維新後の日本が経済的、社会的、文化的にどのように変化したのかを理解する。		
		10.日本の明治初期の外交	欧米列強が世界を分割し、植民地化していく中で、日本はどのような外交を展開したのかを理解する。		
		11.大日本帝国憲法の制定	日本の近代化と国民国家形成の過程を理解する。		
		12.日本の産業革命と日清戦争	日本が近代化を進める中で、産業革命と対外侵出がどのように関わっていくのかを理解する。		
		13.帝国主義	帝国主義とは何かを理解する。また、帝国主義国の植民地獲得競争がどのように繰り広げられたのかについて理解する。		
7		14.日露戦争と韓国併合	日本が産業革命の推進する中で、朝鮮半島、さらに中国大陆と侵略していく過程を理解する。		
	第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち	1.大衆運動の芽生え	大衆化とは何か、また、大衆化によって人々の生活がどのように変化したのかを理解する。	25 時間	定期考査 授業態度、取り組み ノート プリント
		2.第一次世界大戦	第一次世界大戦の推移と戦後の世界に与えた影響などに着目して、第一次世界大戦の性格と惨禍、国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察することを通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する		
		3.第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦への日本の参戦の背景と影響などに着目して、日本とアジアおよび太平洋地域の関係などを多面的・多角的に考察し理解する。		

		4.ロシア革命とその影響	ロシア革命の発生と、ソヴィエト連邦の成立、社会主義運動の拡大過程について理解する		
8 9		5.社会運動の広がり	第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。		
		6.国際協調	第一次世界大戦後の国際協調体制について理解する。		
		7.アジアの民族運動	アジアの経済成長と民族運動の高揚について、それぞれの地域の結び付きを理解する。		
		8.大量生産・大量消費社会	1920年代アメリカにおいて大量生産・大量消費社会が発展したことについての考察と理解を深める。		
		9.世界恐慌	世界恐慌の発生した原因とそれに対する各国の対応について、多面的・多角的に考察し、理解する。		
		10.独裁勢力の台頭	ブロック経済体制の包囲網により深刻な不況から抜け出せないドイツや日本において、軍事独裁体制が成立していく過程を考察し、理解する。		
10		11.日本のアジア侵出	日中戦争やファシズムの膨張による世界の危機について理解する。		
		12.第二次世界大戦	第二次世界大戦の勃発とその拡大について理解する。		
		13.第二次世界大戦と日本	第二次世界大戦と日中戦争との結び付きについて理解する。		
		14.第二次世界大戦の終結	ヨーロッパ戦線、アジア戦線の推移と、大戦の終結について理解する。		
		15.戦後国際秩序	第二次世界大戦の終結と戦後の国際秩序の形成について理解する。		
11		16.冷戦の始まり	米ソの対立と冷戦の展開について理解する。		
		17.日本の戦後改革と日本国憲法	連合国による日本の占領政策と日本の戦後改革、日本国憲法の制定について理解する。		
		18.日本の独立	冷戦の展開と日本の主権回復について理解する。		
	第3部 グローバル化 と私たち	1.第三世界の登場	冷戦の拡大と第三勢力の台頭について理解する。	21 時間	定期考査 授業態度、取り組み ノート
		2.冷戦の固定化と「雪解け」	冷戦下の核開発競争と宇宙開発競争、および核兵器管理への方針転換について理解する。		

12		3.冷戦の展開	冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容を多面的・多角的に考察し理解する。	プリント
		4.55 年体制と安保闘争	冷戦下における日本の国内外の政治状況や日米安保体制について考察し理解する。	
		5.高度経済成長の光と影	世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。	
		6.ベトナム戦争とアメリカ	ベトナム戦争と冷戦構造の変容について理解する。	
		7.経済構造の変化	ブレトン・ウッズ体制の崩壊や石油危機後の、日本や諸外国の経済の変容について理解する。	
1		8.日本の経済大国化	欧米先進国と日本の経済成長とそれに伴う社会の変容について理解する。	
		9.アジアの経済成長	東アジア・東南アジア諸国・地域の経済発展について理解する。	
		10.社会主義の停滞と新自由主義	情報技術産業の急速な成長と、石油危機後の世界経済の発展によって、欧米の政治状況下にどのように新自由主義が台頭したかを考察し理解する。	
		11.冷戦の終結	冷戦の終結と米ソの関係、国際的な政治状況などについて考察し理解する。	
2 3		12.冷戦後の地域紛争	冷戦終結による地域紛争の拡散などに着目し、冷戦後の国際政治を多面的・多角的に考察し理解する。	
		13.地域統合	冷戦終結後に進んだグローバル化と地域統合について理解する。	
		14.現代世界の諸課題	現代的な諸課題に関する主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し理解する。	
		15.日本の諸課題	グローバル化や地域統合、新自由主義と民主主義、地球温暖化と持続可能性など世界における諸課題と日本が抱えている問題点について理解する。	

計 70 時間 (50 分授業)

6 課題・提出物等

単元ごとのプリント学習、月 1 回の授業ノート提出などで定期考査でははかれない個々の取り組み・態度など評価する。

7 担当者からの一言

「歴史総合」は、従来の科目である「世界史 A・B」「日本史 A・B」「地理 A・B」の反省点を踏まえ、時間認識と空間認識をバランスよく総合する人材育成を目指し、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育むという観点から、「地理総合」とともに必修履修科目として誕生しました。2 年次の「歴史総合」の授業では、1 年次の「地理総合」との相互補完的な役割を認識するとともに、3 年次に選択履修する「世界史探究」「日本史探究」へと発展的につなげていきたいと思ひます。